

横田、共同ミッションに参加 *Yokota supports joint missions*

August 10, 2021

By Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

7月、「パシフィック・アイロン2021作戦」に参加するため、太平洋空軍と航空戦闘軍の35機以上の航空機と約800人の空兵が米国インド太平洋軍の管轄地域に展開した。

横田基地は、第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズを用い、パシフィック・アイロンの複数の拠点に空輸支援を行った。

「パシフィック・アイロン2021」は、より破壊力が大きく、適応力の高い、強靱な軍隊になることを求めた2018年の国家防衛戦略を支援する、米国インド太平洋軍の管轄区域に戦力展開する太平洋空軍の動的戦力運用を高めるものである。

第36空輸中隊パイロット指導官のザクリー・ホーランド大尉は、「我々の主な役目は、部隊とその装備機材を集結することだ」「複数の部隊が僻地に向かう際には、我々が燃料や物資を運び、戦闘機や空軍資産が任務を完了できるよう支援する」と述べた。

こうした遠隔地での航空戦力の機動を、迅速な戦闘展開(ACE)と呼んでいる。「ACEは、我々に果敢に挑戦する機会を与えてくれる。それによって、接近する競合相手に立ち向かう際に、より柔軟な力を発揮することができる」「我々はこの作戦を通じて戦術を実行し、何が有効で何が無効か、どう改善できるかを見極めている」とホーランド大尉は語る。

「パシフィック・アイロン2021」に加え、横田基地の空兵と航空機は、陸軍演習「フォージャー21」にも参加している。

「フォージャー21」は、米軍とその同盟国によるインド太平洋全域での戦力展開を強化することを目的としている。この演習では、陸、空、海、宇宙、サイバースペースの全ての領域において地域の同盟関係や国際協定を支援するためのあらゆる安全保障対策に取り組む。

ホーランド大尉は、「共同パートナーと普段はできないような訓練を行い、協力する有意義な機会だ」と語り、空兵がここでやっていることは、将来の戦いに影響するものだと述べた。

「現在の軍環境でのやり方を変えなければならない」「我々は、戦いの進化を予測し、訓練する必要がある」とホーランド大尉は言う。

今回の演習で、米軍と同盟国は群島型環境で共同・統合・マルチドメイン作戦を実施し、新たな能力を試す機会を得た。ひいては部隊が一体となり、自由で開かれたインド太平洋地域への強いコミットメントを強調するものとなった。

